

# 海外生活 エッセー

## パリ事務所

### クリスマスツリーの「第2の人生」

(一財)自治体国際化協会パリ事務所 所長補佐 阿久津 佑介 (総務省派遣)

クリスマスツリーの伝統はヨーロッパの祝祭文化に深く根付いており、フランスでは購入者の約9割が天然木のクリスマスツリー（仏語ではサパン・ド・ノエル）を選ぶといわれています。シーズンが訪れると、大小さまざまなクリスマスツリーが街を彩り、パリは一層の輝きと魅力に包まれます。

しかし、その華やかな光景も束の間、1月上旬になると、パリの公園などには、役割を終え無造作に廃棄され

たクリスマスツリーの山がいくつも現れます。クリスマスの夜には美しく飾られ、家族や恋人、友人たちと温かく穏やかな時間を共に過ごしたであろうツリーたちはその輝きを失い、本来の「モミ」または「トウヒ」の姿に戻り、「第2の人生」の始まりを待つこととなります。



トロカデロ公園に廃棄される天然ツリー

#### → 伝統的な天然ツリーはエコなのか

フランスでは毎年約500万本もの天然ツリーが販売されています。これらの全てが、基本的にはシーズン後に廃棄されることとなりますが、なぜこのような大量消費が受け入れられているのでしょうか。政府ホームページなどによると、天然ツリーは、自然林から伐採されるものではなく、モルヴァン地方（フランス中東部にある山岳地帯）をはじめとした植林地で計画的に栽培されたものであり、自然破壊を伴うものではないとされています。

また、炭素収支や農薬使用など環境への影響を抑えるため、有機栽培などを行う生産者を対象とした国際的な認証制度も整備され、消費者がより環境負荷の小さい天

然ツリーを購入できる仕組みも整備されています。

一方で、人工ツリーには懐疑的な見方が多く、一般的な石油由来プラスチック製（主にアジア圏で生産）の場合、その製造や輸送に伴うCO<sub>2</sub>の排出など環境への影響を天然ツリーと相殺するためには、同一の人工ツリーを20年以上使用し続ける必要があるとの指摘があります。

#### → 天然ツリーの「第2の人生」

パリ市の例を見ると、市が収集地点として指定した公園などから回収された天然ツリーは粉碎され、緑地の植物を保護するため被覆材（マルチ）として再利用されています。花壇の土台や歩道に敷き詰めたマルチは、雑草の発生や水分の蒸発を抑え、土壌の微生物の繁殖を促進して土壌の生命力を高めるなど、環境にも優しい効果が期待されています。2025年の年末年始には、パリ市内で11万本の天然ツリーが181カ所の収集地点に集められ、約2,500㎡のマルチが生成されました。2007年の回収活動開始以来、これまでに約130万本の天然ツリーが回収されています。



パリ市の標語「サパンに第2の人生を」

#### → 伝統 or 環境保護、どちらを優先？

今日のフランスでは、毎年の天然ツリーの大量消費を正面から否定する大きな声は聞かれません。年明けの公園で無造作に、かつ大量に横たわる天然ツリーの光景は、日本からやってきた私にとってクリスマスという伝統行事が与える環境への影響について、考えるきっかけとなりました。